

オオセグロカモメ

Larus schistisagus (Stejneger, 1884)

チドリ目 カモメ科

●岡山県：準絶滅危惧

●環境省：準絶滅危惧（NT）

選定理由

元々県内への渡来数は多くないと思われるが、現在では局所的に少数が観察されるだけであり、県内の生息地が減少している可能性がある。個体数減少の要因として繁殖個体数の減少が考えられているが、県内の海洋環境の変化による採食環境の悪化も影響している可能性がある。

形態

全長 61cm。セグロカモメに似るが、背や翼の上面はより黒っぽい。背や翼以外は全身白色だが、冬期には頭部に褐色の細かい斑点が入る。若鳥は全身に褐色の斑点があり、セグロカモメの若鳥との識別は難しい。

分布

カムチャッカ半島から北海道周辺にかけての沿岸で繁殖する。越冬期には朝鮮半島や西日本まで南下するが、内湾環境や西日本では個体数が少ない。

生息状況

県内には冬鳥として渡来し、主に児島から高梁川河口にかけて確認されるが、近年はそれ以外の場所での観察例は稀であり、生息数は少ない。

関係法令の指定状況

なし

文献 江田ほか（2018）、叶内ほか（2013）、叶内 解説（2017）、環境省 編（2014）、日本鳥学会 編（2012）、大西 解説（2014）、高野（2015）、吉井 監修（1988）



（丸山健司・多田英行）